



<ラムサール通信>

2022年5月30日発行 第211号

●第32期 ラムサールセンター総会実施のお知らせ●

ラムサールセンター(RCJ)の第32期総会を下記のとおり開催します。1年間の歩みを評価し、新年度の活動方針を検討します。

【日時】: 2022年7月3日(日) 14:00~16:00

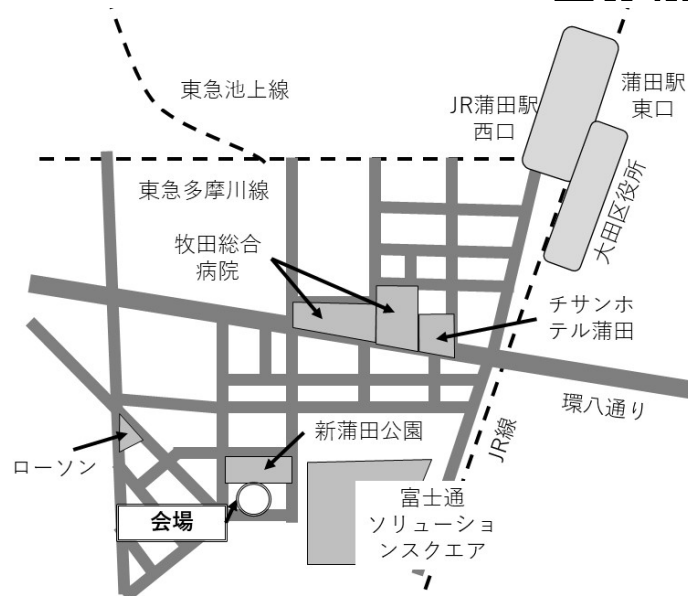
今年度の総会に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響に配慮しつつ、東京の現地会場とオンラインによるハイブリッド会議を開催することとしました。対面でお会いできる機会が久しぶりとなりますので、お近くの方はぜひお越しください。もちろん、オンラインでのご参加も大歓迎です。

○現地会場に関する情報

場所: 新蒲田複合施設
カムカム新蒲田 2階 集会室1
JR蒲田駅、東急蒲田駅から徒歩10分



会場アクセス
QRコード



○オンライン参加に関する情報

Zoom ミーティング ID: 816 3258 4314
パスコード: 628135

参加用
QRコード



●第112回<ワイズユース>ワークショップを開催しました●

RCJの第112回<ワイズユース>ワークショップを3月13日(日)にオンラインで開催しました。

第112回のワークショップは、2021年度のラムサールセンターの活動の振り返りを行い、地球環境日本基金の助成で実施していた「インド・チリカ湖集水域におけるゾウとヒトの共生圏の創造に向けた生息地管理および環境教育」の第1年度事業や、岩崎さんが代理人として務めたPALLISHREEの地球環境基金の助成で実施していた「インド国ベンガル湾岸湿地（バフダ入江およびルシクリヤ河口）における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発」の活動成果、国土緑化推進機構の助成で実施していたバングラデシュでの植林事業、トヨタ環境活動助成プログラムで実施していたミャンマーでのマングローブ保全活動、People, Wetlands, Wildlife ウェブサイトの更新等についての共有を行いました。年間の活動報告は総会内で実施し、ラムサール通信内においても改めて共有いたします。

●経団連自然保護協議会 第109回NGO活動成果報告会のご案内●

2022年7月13日に経団連自然保護協議会主催の第109回NGO活動成果報告会（13:30～15:00）をオンラインで開催します。この企画は、同協議会関係者を招いて、KNCFが支援するNGOの自然保護プロジェクトについて、活動の進捗状況や成果、体験談などを話題提供する場として設けられたものです。ベンガル湾湿地パートナーシップ（BoBWeT）の取組を報告した第103回（2021年7月）に続き、BoBWeTパートナーであるPALLISHREE（インド）、Bangladesh POUSH（バングラデシュ）の二団体から湿地保全活動の具体的取組を報告していただきます。会員の山田真理さんの同時通訳で行われます。オンライン参加を希望される方は、2022年6月末までに事務局（ramsarcj.nakamura@nifty.com）にお問い合わせください。

●「People, Wetlands, Wildlife」に、新たに2か所のコンテンツが追加されました●

国内のラムサール条約登録湿地を英語で紹介するウェブサイト「People, Wetlands, Wildlife（<https://pwwj.org>）」に、葛西海浜公園、谷津干潟のコンテンツが新たに追加されました。本事業は、インテュムコンサルティング株式会社が環境省の野生動物観光促進事業の補助金を受けて実施し、ラムサールセンター、日本国際湿地保全連合、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、環境省、各地域の地方自治体が製作に協力しているコンテンツです。

本事業は昨年度の3年間で一区切りを迎え、2月15日にはオンラインで評価ワークショップを行い、関係者各位での評価、振り返りが行われました。事業としては終了をしましたが、今後も湿地に関する動画を用いた情報発信を行えるよう、検討を進めたいと思います。

○People, Wetlands, Wildlife ウェブサイト URL：<https://pwwj.org/>



PWW ウェブサイト
QR コード

●ミャンマーで実施していた「トヨタ環境活動助成プログラム」の報告冊子が完成しました●

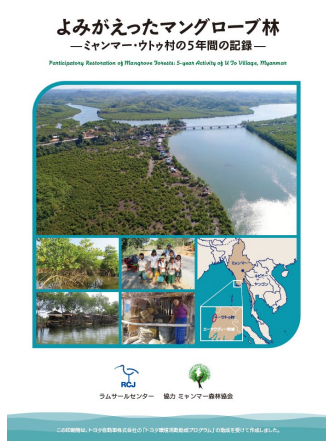
2017年より、ミャンマーのウトウ村でトヨタ環境活動助成プログラムの助成金を用いて実施していたマングローブ林に関する活動が、2021年度で一区切りを迎えました。そして、これまでの成果をとりまとめた「よみがえったマングローブ林 -ミャンマー・ウトウ村の5年間の記録-」の冊子を、亀山さん、中村玲子さん、北本さんが編集・執筆を行い、作成しました。

ウトウ村での活動を始めたきっかけや4年間の活動の概要、マングローブそのものの解説やマングローブによる恩恵の紹介など、助成金事業の報告にとどまらない内容となります。日本語版、英語版を作成し、データはラムサールセンターホームページに掲載しています。会員の皆様には次回のラムサール通信発送時に冊子を同封しますので、ぜひご覧になってください。

○掲載ホームページ URL <https://ramsar-cj.site/blog/2022/06/01/myanmar-jp-report/>



掲載ウェブサイト
QRコード



●「ラムサールセンターの30年」を、ラムサールセンターホームページ上に公開しました●

ラムサールセンターの創設者で初代会長の磯崎博司先生（岩手大学名誉教授）の「古希記念論文集」が2022年に刊行されました。そしてラムサールセンターが30周年迎えるにあたり、ラムサールセンターフェローの中村玲子さんが、これまでのラムサールセンターでの活動の振り返りを書いた「ラムサールセンターの30年」を、同書内に寄稿しており、その内容をラムサールセンターのホームページに掲載できることとなりました。

ラムサールセンター創設のきっかけや活動の裏話なども記載されています。ラムサールセンターの以下のURLのページにて公開しましたので、是非ともご覧ください。

○「ラムサールセンターの30年」寄稿ウェブサイト URL
<https://ramsar-cj.site/30th/>



掲載ページ
QRコード

●松山大学人文学部へと移動しました（新井雄喜さん）

副会長の新井雄喜さんの所属が変わり、信州大学社会基盤研究所から松山大学人文学部へと転職されました。主に国際環境問題に関する講義での教鞭をとることとなります。新しい職場への意気込みとして、「研究と実践を結びつけることを通じて、自然環境を守りながら、人の暮らしもより豊かにしていけるような活動に取り組んでいきたいと考えています。また、若者の育成にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。」というコメントをいただきました。

●荒尾市で、荒尾干潟ラムサール条約湿地登録10周年記念事業が開催されます（田辺篤志さん）

7月3日（日）に荒尾市において、荒尾干潟ラムサール条約湿地登録10周年を記念した記念事業を開催します。午前は荒尾総合文化センターでシンポジウム、午後は荒尾干潟水鳥・湿地センターでのイベントを開催します。有明海の再生に関する講演や、有明海の保全・再生に関するパネルディスカッション、干潟に関する現地でのワークショップなど、様々な催しが開催されます。予約なしで、無料で参加できますので、お近くの方はご参加ください。ホームページなどがまだ作成されていないので、問い合わせは荒尾市環境保全課（TEL：0968-63-1386）までお願いします。

●論文が会誌「淡海生物」に掲載されました（山本賢樹さん）

山本賢樹さんの論文「栗東市上鉤池におけるヘラサギの観察記録」が、淡海生物研究会会誌「淡海生物」に掲載されました。滋賀県栗東市にある上鉤池における野鳥の観察記録をまとめた論文となります。以下URLよりどなたでもご覧になれます。（ご覧になるためには、Gmailのアカウントが必要となります。）

○URL：https://drive.google.com/file/d/1xPIXbRp-bTfq_g8N0mUx0Ld-2uxHnxU/view



○会員の皆様からのお便りを募集しています○

ラムサール通信では湿地や環境に関する各種案内を掲載し、会員の皆様に発信をしておりますが、会員の方々や関係者の方々の湿地や環境に関する活動の情報共有のツールとしても活用したいと考えております。

湿地や環境に関する、ニュースや簡易な報告などは今後も短報として発信をしますので、ご報告やご紹介したい出来事や記事、写真などございましたら、事務局にご連絡ください。

・いただいたお便りの掲載の可否を事務局にて判断の可否をさせていただいたうえで、掲載をさせていただきます。

○事務局連絡先：ramsarcj.nakamura@nifty.com